

「知床アクティビティ リスク管理体制 検討協議会」の設置の趣旨

斜里町

1. 背景

令和4年4月23日に知床半島沖発生した「知床遊覧船」による海難事故は、観光・旅行関連のものとしては近年稀にみる大規模で悲惨な事故であり、今もなお行方不明者の捜索と原因究明が行われている。同時に、特定事業者による事故といえども、「知床」・「知床観光」に対しても多大な影響が及んでいることも周知のとおりである。

自然体験型アクティビティは、知床観光にとって不可欠で、目的性の高いコンテンツとなっているものの、自然体験特有のリスクも多く、自主的かつ地域的な安全管理の意識醸成と体制構築が欠かせないと考えている。

海難事故を踏まえ、今一度、アクティビティ及びそのリスクマネジメントの現状と課題、考え方を確認し、共有することで、事故の未然防止や影響度合いを低減させるなど、地域としての検証と信頼回復に向けた取り組みが必要と考えているところであり、本協議会を設置することとしたものである。

2. 目的

町内で行われている自然体験型アクティビティの実態把握やリスク分析を行い、必要に応じて改善策またはリスクマネジメントのあり方を総合的に検討し、安全管理体制の一層の向上を図り、もって知床及び知床観光の信頼回復をめざすことを目的とする。

3. 概要

- | | |
|----------|---|
| (1) 位置付け | 規約に基づく任意協議会 |
| (2) 名称 | 知床アクティビティリスク管理体制検討協議会 |
| (3) 設立 | 令和4年8月23日設立（第1回協議会開催） |
| (4) 期間 | おおむね令和5年度末までを想定した時限の協議会 |
| (5) 委員 | 専門委員（2名）、関係団体（知床斜里町観光協会、知床ガイド協議会、知床小型観光船協議会、知床財団）、オブザーバー（北海道運輸局観光部）、アドバイザー（日本航空株式会社）、主催・事務局（斜里町）
なお、論点が定まり、協議スケジュールが明確になった後には、順次、協議会への参画を要請する関係団体やオブザーバーを増やす予定としている。 |
| (6) 予定 | 令和4年度末までに中間報告、令和5年度末までに最終報告をまとめることを目標とする。 |